

平成29年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

次 第

日時：平成30年3月19日（月）

午前10時～

場所：東温市役所4階 大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

（1）平成30年度の取り組み概要（案）について・・・・・・・・・・【資料1】

（2）市内バス路線の利用状況について（森松・横河原線）・・・・・・・・【資料2】

（3）予約制乗合タクシーの利用状況について・・・・・・・・・・【資料3】

4. 東温市地域公共交通アドバイザーによる講演

（香川高等専門学校准教授 宮崎 耕輔氏）

5. 閉会

<事前送付資料>

【資料1】平成30年度の取り組み概要（案）

【資料2】市内バス路線の利用状況（森松・横河原線）

【資料3】予約制乗合タクシーの利用状況

平成29年度第3回

東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）出席者名簿

	団体	役職	委員	備考
1	東温市	副市長	大石 秀輝	
2	伊予鉄道株式会社	運輸事業本部長	中尾 均	(代理) 畦地 大輔
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	稲荷 和重	
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	事務局長	田所 秀志	(欠席)
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	福田 尊元	(欠席)
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	中川 逸朗	(代理) 明日 俊幸
8	東温市産業建設部	部長	丹生谷 則篤	
9	東温市区長会	会長	三棟 義博	
10	東温市老人クラブ連合会	会長	田中 康雄	
11	東温市婦人会	会長	高須賀 恵美子	
12	東温市PTA連合会	顧問	門地 剛史	(欠席)
13	東温市社会福祉協議会	会長	藤原 弘	
14	市民の代表（公募）		藤本 貞夫	
15	市民の代表（公募）		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	岡村 陽介	
17	伊予鉄道労働組合	副執行委員長	寺田 淳泰	(欠席)
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務・企画担当)	山下 文明	
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	谷本 昌啓	
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	久保田 晶	(代理) 大西 明善

【アドバイザー】香川高等専門学校	准教授	宮崎 耕輔	
------------------	-----	-------	--

平成29年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時： 平成30年3月19日(月)10:00~11:30

会 場： 東温市役所 大会議室

1. 開会

進 行： これより平成29年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

2. あいさつ

会 長： <挨拶>

3. 協議・報告事項

(1) 平成30年度の取り組み概要(案)について

事務局： <説明(資料1)>

会 長： 何か質問等はあるか?

谷 本： パークアンドライドの駐車場は何区画あるのか。

事務局： 土日祝日限定で、10区画開放している。

谷 本： 利用するにあたって、事前の申し込みは必要なのか。

事務局： 事前申し込みは必要ない。駐車場に設置してあるボックスに利用カードが入っており、利用中はそのカードを車の前に置いておく。利用が終わったら、返却ボックスにカードを戻していただくという仕組みになっている。

会 長： 利用の状況は把握しているのか。

事務局： 毎週記録をつけており、週に2~3人程度は利用されているという状況である。

横 手： 第1回目の協議会で、社協さんを通じて高齢者に関するアンケート調査に公共交通の項目を入れてみてはどうかという話があったが、これが資料1の6番の「高齢者サロン等の場で公共交通についての意見交換を行う」ということでよいのか。

事務局： 第1回目の協議会で話が出た後に、福祉の担当課に、アンケート調査に公共交通の項目を入れることはできないかと相談したが、アンケートの作成がすでに終わっているためできないということであった。その代わりという意味合いも込めて、高齢者サロン等に出向きお話をさせていただこうと考えている。

横 手： それは山間部だけではなく、市内全域で行うのか。

事務局： とりあえずは山間部だけと考えているが、市街地においても実施するか検討したい。

横 手： 山間部もちろん大事だが、播磨台や上村等にも独居の方が多かったりするので、そのようなところにもお話を伺った方がいいと思う。

会 長： 山間部の方は、交通に関して不便な部分があると思うが、平地部についても高齢化が進んでいる地域も多いので、全体的な調査について事務局側で検討いただきたい。

三 棟： 交通すごろくとはどのようなものなのか。

事務局： クルマカードと電車・バスカードの2種類のカードを使う。クルマカードは最大6マス進むことができるが、出す人が多いと、渋滞等の関係で進めるマスが少なくなるのに対し、電車・バスカードは必ず3マス進むことができる。このようなカードを出しながら、先にゴールである目的地に着いた人が勝ちというゲームである。

- 会 長： 事業者の立場から伊予鉄道さん、何かあるか。
- 畦 地： 資料1の7番の子どもバス教室は毎年2回ほど実施しており、前回は2月の寒い時期に実施したにも関わらず多くの人にご参加いただいたので、引き続き協力して実施していきたい。
- 会 長： タクシー連絡協議会会長の和田さん、何かあるか。
- 和 田： 上林の乗合タクシーは毎週ご利用いただける方が定着してきており、利用が徐々にではあるが増えてきている。1月と2月については、上林小学校から上の地域は路面凍結の関係で予約があったにも関わらず運行を見合わせた日もあるので、そのようなことがなければ、もう少し利用者数が増えていたと思う。
- 会 長： だいぶ上林地区の乗合タクシーも定着し、地元の方の移動手段となっていると思う。
- 岡 村： 警察の立場から運転免許の自主返納の件数等をご報告させていただきたい。愛媛県内の平成25年の自主返納者数は2,061人でその内、東温市の返納者数は38人だったが、平成29年では県内で5,568人、その内東温市は108人となっており、県内で2.5倍、東温市で2.8倍に増えている。今年は2月末の時点で、県内で1,067人で、年に換算すると約6,400人、東温市でもすでに23人返納しており、年に換算すると約140人の人が返納することとなる。平成25年と比べると5年間で県内の返納者数が約3倍、東温市で約3.7倍に増えている。東温市は昨年9月から免許証の自主返納支援サポート事業を始めていただいて、その他、愛大医学部の通学路ピックの設置など、交通安全に非常に高い関心を持っていただいている。高齢者の交通事故というのは社会的な問題となっていて、75歳以上の方の交通事故率は、他の年代の約1.5倍となっている。新聞やテレビ等のマスコミも全国的に高齢者の事故等に高い関心を示している。警察でもシニアセーフティプロジェクトを数年前から実施しているが、今年もそのプロジェクトの中で、高齢者の運転免許証返納の促進をかかげている。高齢になると身体機能が低下し、運転にかかせない能力である、認知・判断・操作が衰え、危険性が高まる。75歳以上の方で、身体能力の低下を自覚された方に自主返納をしていただくのだが、返納した後の不安は、移動手段がないということである。上林地区の乗合タクシーを4月から本格運行していただくということで、予算の関係もあると思うが、公共交通のない地区に住んでいる高齢者の方の不安を払しょくするという点でも、乗合タクシーがあれば免許返納がしやすくなるのではないかと思う。高齢者が免許返納をしやすくなる環境づくりの一環として、乗合タクシーの存続をお願いしたいと思う。ある程度の時期がきたら、予算や地域の需要や必要性を検討していただいて路線の拡充もできれば検討していただきたいと思う。これからも警察は免許返納を推進していくと思うので、ご協力をお願いしたい。
- 会 長： ご案内のとおり、年度途中であるが今年の9月から東温市も運転免許の自主返納支援サポート事業を開始した。平成25年と比べて平成29年で2.8倍の返納者数ということで、若干の効果はあったのではないかと思う。あわせて乗合タクシーの路線拡充ということであるが、上林地区にも定着してきているので、今後こちらの協議会でご協議いただきながら利用促進や、路線拡充を検討していきたいと思う。
- 藤 本： 取組概要の案だが、例年とほとんど同じ内容に感じる。目玉としてはなにがあるのか。
- 事務局： 基本的には例年と同じ取組となるが、今回は資料1の5番と6番が新しい取組となる。
- 藤 本： パークアンドライドやモビリティマネジメントも例年実施していると思うが、その効果が

どのようであって、どう次に活かしていくのが大事ではないか。

事務局： モビリティマネジメントは平成26年度に実施し、取組の効果があつたことがその後の追跡調査等によりわかつたことから、平成29年度に引き続き30年度も実施することにした。

藤 本： 今回の取組概要では公共交通の活性化を図るといふのが見えてこないのだが、そのあたりはどうか。

会 長： 今まで継続して事業を取り組んでいるが、ある程度の時期に検証しながらその状況をこの協議会の場で報告をして、公共交通の活性化に向けた取組を徐々に進めていくということで、平成30年度は検証もしながら、事業を進めていけたらいいと思う。

事務局： 平成28年3月に「東温市地域公共交通網形成計画」を策定し、5年間の計画としてそれに基づいて事業や取組を実施している。その中で資料1の6番の、計画の進捗状況の確認、それ以外にも高齢者の移動手段の確保といふのが非常に大切になってくるのではないかと事務局では考えている。計画の中では少ししか触れてはいないが、これらを主体的に考えていく時期に来ているのではないかと思う。ただ、東温市自体が、伊予鉄道さんの路線バスが、山間部のそれぞれの谷ごとに路線があつたり、鉄道は15分毎、路線バス川内線は30分毎で運行していたり、それらが運行していない平野部ではタクシー事業者さんがカバーしたりしている中、今後免許返納者が増えていくとどのような形にもっていくのが、東温市だけでなく、全国的に問題となっている。国の方でも、高齢者の移動に関する検討会を設置したりと色々検討を行っている中で、公共交通の担当だけではなく、福祉部局の担当との連携も重要になってくると思う。今後連携をどのようにとっていくのかといふことも計画の進捗状況を確認したうえで来年度検討をしていきたいと考えている。

会 長： 平成30年度は計画の3年目となる折り返し地点となるといふことで、今までの状況も把握をしながら、また、サロン等でも意見交換をしながら、次に向けて進んでいきたいと思うので、委員の皆様方も引き続きご指導いただきたいと思う。

会 長： 他に意見はないか？なければ平成30年度取組み概要（案）についてご承認いただけるか。

各委員： <全員賛成>

会 長： ご承認いただいたので、この取組み概要に基づいて順次事業を実施していく。皆様方にも引き続きご協力をお願いしたい。

(2) 市内バス路線の利用状況について（森松・横河原線）

事務局： <説明（資料2）>

会 長： 何か質問等はあるか？

横 手： 森松・横河原線は便数が多いうえ、山之内は美しい景観のところも多いので、お出かけしたいシニア世代の方に、行き方等を提示するとバスを利用してくれる方も増えるのではないかと思う。

会 長： 他に何か質問や意見はあるか？

各委員： <質問・意見なし>

会 長： ないようなので、以上で市内バス路線の利用状況（森松・横河原線）について終わる。

(3) 予約制乗合タクシーの利用状況について

事務局： <説明（資料3）>

会 長： 目標の「1便あたりの平均利用者数2人以上」という目標を達成し、4月から本格運行となるが、先ほど和田委員も言われたが、今年の冬は雪がだいぶ降った関係で、予約に対応できなかった日もあったということなので、それがクリアできていればもう少し利用者数も増えていたのではないかと思います。先ほどの事務局の説明に何か質問等はないか？

和 田： 新規で乗られる方は、利用方法が分からず、文章等で見てもわからないといったことがあるようなので、色々な機会でも市の方からも高齢の方にはご案内等を出していただければと思う。最初の電話をするときに何を伝えたらいいのかわからない方もいるので、周知していただければと思う。

会 長： 事務局で今後考えている周知方法はあるか。

事務局： 今は区長さんを通じて登録している方に乗合タクシーの利用状況等を周知しており、新規で登録された方には利用の仕方等を書いた手引きを郵送しているが、文章だけでは分かりにくいという方には、かみ砕いた内容の説明等もしていきたい。

会 長： 区長さんを通じて文書を配布するという方法もあるが、上林地区は高齢者サロンがあるので、サロンの場でも周知できればより良いと思う。

会 長： 他に質問や意見等はないか？

各委員： <質問・意見なし>

会 長： ないようなので、以上で予約制乗合タクシーの利用状況について終わる。

(4) その他

会 長： 本日の協議・報告事項は終了したが、その他で公共交通に関するご意見や、お気づきの点等はないか？

谷 本： 最初の議題の中にもあったが、平成30年度が「東温市地域公共交通網形成計画」の中間見直しの時期ということで、先ほど出てきた免許返納の話もそうではないかと思うが、策定した時と状況が色々変わっているのではないかと思います。個人的には免許返納された方の次の交通手段をどうするのかということがあり、返納割引を実施しているところもあるので、できるだけスムーズにそういった方向に誘導できたら多少は利用にプラスに働くのではないかと思います。見直しのタイミングで皆様からもご意見をいただいて、計画の後半の期間を上手く利用促進につなげていければいいのではないかと思います。

会 長： 計画も3年目の折り返し地点ということで、免許返納制度のような途中で始まった事業もあるので、策定当時とは状況が異なっていると思うが、色々状況を検証しながら進めていただきたい。

宮 崎： 協議会自体についてだが、協議事項の後に報告事項という流れだが、平成30年度の取組概要案を出されても、それが良いか悪いかというのは、なかなか議論できないのではないかと思います。この協議会は網計画で立てられた、当時の地域課題に対してどのように対処していくかを整理する場なので、今年度までの取組でこのような課題が出てきたので、来年度こうしていくといったような整理がなされていく必要があると思う。来年度からは、網計画の基本方針を示したうえで、このようなことをした結果、このようになったという整理をしていった方が委員の皆さんの意見も出やすいのではないかと思います。

会 長： 事務局は先生がおっしゃられたことも検討して実施していただきたい。他に質問や意見等はないか？

各委員： <質問・意見なし>

会 長： ないようであるので本日の協議、報告事項は終わらせていただく。

4. 東温市地域公共交通アドバイザーによる講演

<講師> 香川高等専門学校准教授 宮崎 耕輔 氏

司 会： 何か質問や感想等はあるか？

谷 本： 地域公共交通網形成計画の内容を分かりやすく皆さんに知ってもらうためには、市だけでなく、我々もわかりやすくPRしなければならないが、できていないという状況もあるので、分かりやすく伝えていく必要があるというのを、講演を聞いて実感した。平成30年度の活動も協力させていただきたいので、よろしく願いしたい。

宮 崎： この協議会は網形成計画が橋渡しになっており、「公共交通」という観点から東温市を住みよいまちにしようというのが大前提にあると思う。そのためには、事業者である伊予鉄道や行政である東温市だけの力ではなんとかならないので、関係する方々に集まっていたいで取り組んでいただきたいと思う。

5. 閉会

進 行： 以上で平成29年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会を閉会する。